

教育研究所通信

発行：都城市教育研究所
第6号 令和6年11月19日

教科班国語科の研究授業！

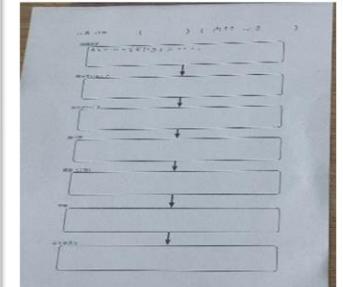
今回は、都城市学校教育ビジョンに掲げる「子どもたちが主役の授業」の具現化に努めている教科班国語科の研究授業の様子を紹介します。どちらの授業も教師の発問や説明は少なく、子どもたちの思考と話し合いが中心の深まりのある授業でした。思考ツールは、子どもの実態に応じてワークシートや FigJam を使い分けたり、子どもたちが Google ドキュメントで共同編集すると同時に教師が板書にまとめたりするなどの工夫が見られました。

【検証授業】

○第5学年国語科 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 第2時
授業者：菓子野小学校 立石 健太 教諭



思考ツール（ステップチャート）と FigJam を手立てとして「単元計画を立てる」という最も教師主導になりがちな時間を子ども主体の授業にすることにチャレンジしました。タブレットとノート、掲示物を有効につなげ、今後も子どもたちの思考が深まる授業を模索していきたいと思います。



【研究授業】

○第6学年国語科 単元名 みんなで楽しく過ごすために 第5時
授業者：富吉小学校 永田 光遵 教諭



この授業を通して、1単位時間の「問い合わせ」から「解決」までの流れと単元全体の「問い合わせ」から「解決」、さらには教科横断(今回は国語と学活)を意識した学びについて研究することができました。



本通信についてのお問合せ

■都城市教育研究所 市役所南別館3階 電話：23-7167（所長直通）36-8721（学校教育課）